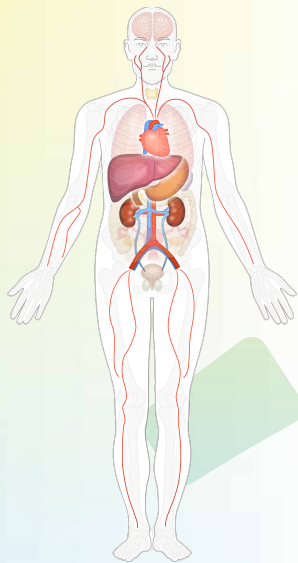




検診



検査項目	目的		検診	
	対象			
※検査項目をクリックいただくと詳しい情報を閲覧できます。				
生化学 I 総項目数	主な臨床的意義		10	5
実施料			109	93
判断料			144	144
●合算			253	237
1	γ-GT	胆道閉塞・アルコール肝炎・脂肪肝	●	
2	AMY	膵臓・唾液腺・腎臓		
3	ALP	胆道・骨		
4	AST	肝臓・心臓	○	
5	ALT	肝臓	●	
6	CK	心筋・骨格筋・甲状腺		
7	LD	心臓・肺・骨格筋・溶血	●	●
8	コリンエステラーゼ	肝硬変・脂肪肝・農薬中毒・麻酔・栄養		
9	総ビリルビン	肝炎・胆道閉塞・溶血		
10	直接ビリルビン	肝炎・胆道閉塞		
11	クレアチニン	腎臓・筋肉量	●	●
12	尿素窒素	腎臓・組織蛋白異化		
13	総蛋白	栄養		
14	アルブミン	栄養・炎症	●	●
	A/G 比 (計算項目)	一般状態		
15	尿酸	痛風・腎臓・肥満	●	
16	ブドウ糖	糖尿病	●	●
17	中性脂肪	動脈硬化	●	
18	総コレステロール	動脈硬化	●	●
19	LDL コレステロール	悪玉コレステロール・動脈硬化		
20	HDL コレステロール	善玉コレステロール・動脈硬化	●	
21	HbA1c	糖尿病	○	
22	CRP	炎症	○	

・ HbA1c は血液形態・機能的検査項目で、実施料は 49 点、判断料は 125 点、CRP は、免疫学的検査で、実施料は 16 点、判断料は 144 点。
 * CRP の適応疾患については、診療報酬支払基金の判断に違いがあるので注意が必要
 ○は、10 項目を超えることを容認するなら加える。
 ●は、生化学以外の検査項目

◆検診

- ・ 検診での検査項目選択の基本は、①スクリーニングのために特異性を犠牲にしても感度の高い検査を採用、②頻度の高い疾患を見逃さないための検査、の 2 点である。
- ・ 肝機能の指標として AST ではなく、ALT を採用し、慢性ウイルス性肝炎以外に脂肪肝を診断する。不特定の組織破壊の指標として AST より感度が高い LD を採用した。追加項目が許されるのであれば AST も測定し、AST/ALT の関係からより深く病態を読み取れる。
- ・ 腎機能ではクレアチニンを、栄養状態・慢性炎症の指標にはアルブミンを、成人に多い高尿酸血症と脂質異常症の鑑別に尿酸と 3 種の脂質 (総コレステロール、中性脂肪、HDL-コレステロール) を選び LDL-コレステロールは計算式で求める。
- ・ 5 項目に取って絞るのであれば、最も感度が高い項目を選択する。